



INTERNATIONAL
MUSIC FESTIVAL
NIPPON

Artistic Director: Akiko Suwanai

国際音楽祭NIPPON 2026

芸術監督: 諏訪内晶子



INTERNATIONAL
MUSIC FESTIVAL
NIPPON

人のいるところには
夢がある。


JAPAN ARTS

Akiko Plays CLASSIC & MODERN with Friends
～中欧の旅

国際音楽祭NIPPON 2026に寄せて

音楽は、言語を超えて人の心に触れ、時代や文化を超越して響きあう芸術です。

国際音楽祭NIPPONは、2012年の創設以来、音楽を通して人と人を結び、過去と未来を紡いでいくことを大切に、歩んでまいりました。

第9回となる「国際音楽祭NIPPON 2026」は、横浜、東海市、名古屋、久慈、石巻の5つの地で開催いたします。今回も、国内外の多世代にわたる優れた演奏家たちが、魅力あふれる多彩なプログラムを奏でます。

また、これまで継続してきた教育プログラムの一つ、マスタークラスを受講された若い音楽家たちが、再び演奏家としてこの音楽祭に参加して下さることも、この音楽祭の特徴の一つとなりつつあります。

音が響きあう瞬間、その思いが未来へと受け継がれていく時間を、皆様と共に過ごせることを楽しみにしております。この度も変わらずご支援を賜っております企業の皆様、関係の皆様へ、心より感謝を申し上げます。

尊い芸術への敬意と、世界の平和を願う想いととも。

国際音楽祭NIPPON 2026
芸術監督
諏訪内 晶子

On the Occasion of the International Music Festival NIPPON 2026

Music is an art form that transcends language and touches hearts, resonating with people in all times and cultures.

Since its beginning in 2012, the International Music Festival NIPPON has placed importance on bringing people together and interweaving past and future through music as it continues its journey.

The International Music Festival NIPPON 2026, the festival's ninth edition, will be held in five locations — Yokohama, Tokai City, Nagoya, Kuji and Ishinomaki. Once again, diverse and fascinating programs will be performed by outstanding musicians spanning several generations, from both inside and outside Japan.

A special aspect of this music festival is that young musicians who previously participated as students in master classes, one of the education programs that has continued up to the present, are now returning to take part in the festival as musicians.

Moments when sounds resonate. I look forward to sharing with all of you a time in which this inspiration is passed on toward the future. I would like to express once again my heartfelt thanks to the corporations that have provided continuous support, and to everyone who has made this festival possible.

With deep respect for the treasure of art, and with the wish for world peace,

Akiko Suwanai
Artistic Director
International Music Festival NIPPON 2026

国際音楽祭NIPPON 2026 芸術監督：諏訪内晶子

Akiko Plays CLASSIC & MODERN with Friends ~中欧の旅

SELECTION

2.25(水)19:00 愛知 東海市芸術劇場 大ホール

February 25 Wed. 19:00 Tokai City Arts Theatre, Main Hall [Aichi]

ドヴォルザーク：弦楽三重奏曲 ハ長調 Op.74 B.148 「テルツェット」 [諏訪内／シュミット／鈴木]
A. Dvořák: Terzetto for 2 Violins and Viola, in C major, Op.74, B.148 [Suwanai/Schmid/Suzuki]

第1楽章：イントロドゥツィオーネ：アレグロ・マ・ノン・トロッポ 1st Mov.: Introduzione. Allegro ma non troppo
第2楽章：ラルゲット 2nd Mov.: Larghetto
第3楽章：スケルツォ：ヴィヴァーチェ 3rd Mov.: Scherzo. Vivace
第4楽章：テーマ・コン・ヴァリアツィオーネ：ポコ・アダージョ 4th Mov.: Tema con variazioni. Poco adagio

ヤナーチェク：「草陰の小径にて」第1集より

L. Janáček: From "On an Overgrown Path" I

第1曲 われらの夕べ No. 1 Our Evenings
第10曲 ふくろうは飛び去らなかった No.10 The Barn Owl Has Not Flown Away
第7曲 おやすみ No. 7 Good Night

リゲティ：無伴奏ヴィオラ・ソナタ

G. Ligeti: Sonata for Viola Solo

第1楽章：ホラ・ルンガ 1st Mov.: Hora lungă
第2楽章：ループ 2nd Mov.: Loop
第3楽章：ファチャール 3rd Mov.: Facsar
第4楽章：プレスティシモ・コン・ソルディーノ 4th Mov.: Prestissimo con sordino
第5楽章：ラメント 5th Mov.: Lamento
第6楽章：シャコンヌ・クロマティク 6th Mov.: Chaconne chromatique

マルティヌー：ピアノ五重奏曲第2番 H.298

B. Martinů: Piano Quintet No.2, H.298

第1楽章：ポコ・アレグロ 1st Mov.: Poco allegro
第2楽章：アダージョ 2nd Mov.: Adagio
第3楽章：スケルツォ：ポコ・アレグレット 3rd Mov.: Scherzo. Poco allegretto
第4楽章：ラルゴー アレグロ 4th Mov.: Largo — Allegro

■ 出演者 ヴァイオリン：諏訪内晶子、ベンジャミン・シュミット チェロ：イェンス＝ペーター・マインツ
Violin: Akiko Suwanai, Benjamin Schmid Cello: Jens-Peter Maintz
ヴィオラ：鈴木康浩、赤坂智子 ピアノ：ソン・ミンス
Viola: Yasuhiro Suzuki, Tomoko Akasaka Piano: Minsoo Sohn

主催：東海市・東海市教育委員会

共催：中日新聞社／CBCテレビ

後援：ドイツ連邦共和国大使館／オーストリア大使館 オーストリア文化フォーラム東京

特別協賛：  豊田自動織機  TOYOTA  豊田通商  AISIN



MODERN

2.26(木)19:00 神奈川 横浜みなとみらいホール 小ホール

February 26 Thu. 19:00 Yokohama Minato Mirai Hall, Small Hall [Kanagawa]

コダーイ: ヴァイオリンとチェロのための二重奏曲 Op.7 [諏訪内/メインツ]

Z. Kodály: Duo for Violin and Cello, Op.7 [Suwanai/Maintz]

- | | |
|---|--|
| 第1楽章: アレグロ・セリオソ | 1st Mov.: Allegro serio |
| 第2楽章: アダージョ | 2nd Mov.: Adagio |
| 第3楽章: マエストロ・エ・ラルガメンテ・マ・ノン・トロポ・レント
— プレスト | 3rd Mov.: Maestoso e largamente, ma non troppo lento
— Presto |

リゲティ: 無伴奏ヴィオラ・ソナタ

G. Ligeti: Sonata for Viola Solo [赤坂]

[赤坂]

[Akasaka]

- | | |
|-------------------------|-----------------------------------|
| 第1楽章: ホラ・ルンガ | 1st Mov.: Hora lungă |
| 第2楽章: ループ | 2nd Mov.: Loop |
| 第3楽章: ファチャール | 3rd Mov.: Facsar |
| 第4楽章: プレスティシモ・コン・ソルディーノ | 4th Mov.: Prestissimo con sordino |
| 第5楽章: ラメント | 5th Mov.: Lamento |
| 第6楽章: シャコンヌ・クロマティク | 6th Mov.: Chaconne chromatique |

スルカ: アプリボワーズ・モア

M. Srnka: Apprivoise-moi [諏訪内]

[諏訪内]

[Suwanai]

マルティヌー: ピアノ五重奏曲第2番 H.298

B. Martinů: Piano Quintet No.2, H.298 [シュミット/諏訪内/鈴木/メインツ/ソン]

[シュミット/諏訪内/鈴木/メインツ/ソン]

[Schmid/Suwanai/Suzuki/Maintz/Sohn]

- | | |
|------------------------|------------------------------------|
| 第1楽章: ポコ・アレグロ | 1st Mov.: Poco allegro |
| 第2楽章: アダージョ | 2nd Mov.: Adagio |
| 第3楽章: スケルツォ: ポコ・アレグレット | 3rd Mov.: Scherzo. Poco allegretto |
| 第4楽章: ラルゴー アレグロ | 4th Mov.: Largo — Allegro |

■出演者 ヴァイオリン: 諏訪内晶子、ベンジャミン・シュミット チェロ: イェンス＝ペーター・メインツ
Violin: Akiko Suwanai, Benjamin Schmid Cello: Jens-Peter Maintz
ヴィオラ: 鈴木康浩、赤坂智子 ピアノ: ソン・ミンス
Viola: Yasuhiro Suzuki, Tomoko Akasaka Piano: Minsoo Sohn

CLASSIC

2.28(土)14:00 神奈川 横浜みなとみらいホール 大ホール

February 28 Sat. 14:00 Yokohama Minato Mirai Hall, Main Hall [Kanagawa]

ドヴォルザーク: 弦楽三重奏曲 ハ長調 Op.74 B.148 「テルツェット」 [諏訪内/シュミット/鈴木]

A. Dvořák: Terzetto for 2 Violins and Viola, in C major, Op.74, B.148 [Suwanai/Schmid/Suzuki]

- | | |
|----------------------------------|---|
| 第1楽章: イントロドゥツィオーネ: アレグロ・マ・ノン・トロポ | 1st Mov.: Introduzione. Allegro ma non troppo |
| 第2楽章: ラルゲット | 2nd Mov.: Larghetto |
| 第3楽章: スケルツォ: ヴィヴァーチェ | 3rd Mov.: Scherzo. Vivace |
| 第4楽章: テーマ・コン・ヴァリアツィオーニ: ポコ・アダージョ | 4th Mov.: Tema con variazioni. Poco adagio |

ヤナーチェク: 「草陰の小径にて」第1集より [ソン]

L. Janáček: From "On an Overgrown Path" I [Sohn]

- | | |
|--------------------|---------------------------------------|
| 第1曲 われらの夕べ | No. 1 Our Evenings |
| 第10曲 ふくろうは飛び去らなかった | No.10 The Barn Owl Has Not Flown Away |
| 第7曲 おやすみ | No. 7 Good Night |

シューベルト: 弦楽五重奏曲 ハ長調 Op.163 D956 [シュミット/諏訪内/赤坂/メインツ/辻本]

F. Schubert: String Quintet in C major, Op.163 D956 [Schmid/Suwanai/Akasaka/Maintz/Tsujimoto]

- | | |
|--|--|
| 第1楽章: アレグロ・マ・ノン・トロポ | 1st Mov.: Allegro ma non troppo |
| 第2楽章: アダージョ | 2nd Mov.: Adagio |
| 第3楽章: スケルツォ: プレスト
— トリオ: アンダンテ・ソステヌート | 3rd Mov.: Scherzo. Presto
— Trio. Andante sostenuto |
| 第4楽章: アレグレット | 4th Mov.: Allegretto |

■出演者 ヴァイオリン: 諏訪内晶子、ベンジャミン・シュミット チェロ: イェンス＝ペーター・メインツ、辻本 玲
Violin: Akiko Suwanai, Benjamin Schmid Cello: Jens-Peter Maintz, Rei Tsujimoto
ヴィオラ: 鈴木康浩、赤坂智子 ピアノ: ソン・ミンス
Viola: Yasuhiro Suzuki, Tomoko Akasaka Piano: Minsoo Sohn

主催: ジャパン・アーツ/日本経済新聞社

共催: 横浜みなとみらいホール(公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団)

後援: ドイツ連邦共和国大使館/オーストリア大使館 オーストリア文化フォーラム東京

駐日韓国大使館 韓国文化院

協力: ユニバーサル ミュージック/神奈川芸術協会



特別協賛: 豊田自動織機 TOYOTA 豊田通商 AISIN



INTERNATIONAL
MUSIC FESTIVAL
NIPPON

Program Notes

ヨーロッパの中心へ！

沼野 雄司(音楽学) Yuji Numano

ハンガリー、チェコ、ポーランドといった国々は、かつて「東欧」と呼ばれていた。しかし東欧革命とソ連邦崩壊を経て、ウクライナをはじめとする国家が新しく誕生した結果、地理的にこれらの旧東欧は「中欧」へとスライドすることになる(もちろんそこには社会主義体制から脱却したという含意も込められているわけだが)。面白いのは、この呼び名変更が、われわれに音楽史のゆるやかな読み替えを促していることだ。エキゾチックな「周縁」から、ヨーロッパ音楽の「中心」へ……。考えてみれば、この地域にははるか中世から強大な王国が栄え、高度な文化が花ひらいていたのではないか。今こそ、われわれは中欧とあらたに出会わなければいけない。本日のプログラムはそうした目的にうってつけのラインナップである。ハンガリー生まれのコダーイ、ルーマニア生まれのリゲティ、チェコ生まれのマルティヌーとスルカ。彼らの音楽に「ヨーロッパの中心」を見いだす小さな旅がはじまる。

CLASSIC

船木 篤也(音楽評論) Atsuya Funaki

■ドヴォルザーク:弦楽三重奏曲 ハ長調 Op.74 B.148 「テルツェット」

2月25日(水)東海市芸術劇場

2月28日(土)横浜みなとみらいホール 大ホール

チェコのボヘミア地方に生まれた、アントニン・ドヴォルザーク(1841-1904)。彼のスラヴ文化への傾倒ぶりは、《スラヴ舞曲集》のみならず、劇的序曲《フス教徒》などからもよく窺えよう。ヤン・フスといえば、ローマ教皇を後ろ盾としたドイツに支配された14・15世紀のチェコにあって、これに抗った神学者。ドヴォルザーク自身が生きた当時のチェコもまた、オーストリア＝ハンガリー二重帝国(1867-1918)に組み込まれたことを思い出そう。もっとも、彼が名声を築き得たのも、一面では、この体制のおかげであったのだが。ブラームスらの支援を得て「オーストリア国家奨学金」を得ることができ、それが作品の出版にも繋がったのだから。

本日聴くヴァイオリン2挺とヴィオラ1挺のための《テルツェット》(1887年)は、知り合いのアマチュア奏者と一緒に楽しむため(ドヴォルザークはヴィオラを担当)に書かれたもので、「愛国的」なものではないが、ここにもスラヴ色がはっきりとある。とりわけ**第3楽章**。3拍子に2拍子割りのリズムが重なる「フリアント」のスタイルで書かれたスケルツォに、2拍目に重みがかかるマズルカ風のトリオが続くのだ。「イントロドゥツィオーネ」と称された**第1楽章**は、切れ目なく続くラルゲットの**第2楽章**への序奏的性格をもつ。朗唱風の**第4楽章**は主題と10の変奏からなる。

■ヤナーチェク:「草陰の小径にて」第1集より

2月25日(水)東海市芸術劇場

2月28日(土)横浜みなとみらいホール 大ホール

レオシュ・ヤナーチェク(1854-1928)もチェコ人であり、スラヴ主義者であったが、こちらはモラヴィア地方の出身である。民俗音楽の採集・編集に注力した創作初期から、モラヴィア民謡への関心はとくに高く、この創作中期のピアノ小品集《草陰の小径にて》(1901-11年)も、そのタイトルをモラヴィアの婚礼歌

にちなんでいる。

2つある曲集のうち、いま話を第1集に絞れば、全10曲のうち5曲は、第三者の編集によるハルモニウム作品集「スラヴの旋律」に寄せて書いたものであり、当初は曲名を持たなかった。その後、自身のピアノ曲集の出版をにらんで、さらに5曲を創作、これらが合わさって第1集が成ったわけだが、このとき、ハルモニウム用の5曲もピアノ版に書き換えられ、題名が付されたのだった。本日抜粋で演奏される**第1曲**「われらの夕べ」、**第10曲**「ふくろうは飛び去らなかった」、**第7曲**「おやすみ」は、いずれもその5曲に属す。

ヤナーチェクはここで、チェコ語の話し言葉の抑揚やツィンバロンの響きを取り込むなど、独自の手法で「作曲」しており、民謡を単純に編曲したのではない。また彼によれば、曲集には「昔の思い出」のほか「ことばに表し得ないほどの苦悩」が詰まっているという。背景の一つとして、1903年の娘オルガの病死があろう。**第10曲**にいう「ふくろう」は、彼女の死の予兆を表したものと考えられている。

■シューベルト:弦楽五重奏曲 ハ長調 Op.163 D956

2月28日(土)横浜みなとみらいホール 大ホール

時をさかのぼって1815年に戻ろう。所も変わってオーストリア帝国の都、ウィーン。ナポレオン戦争がついに終息し、帝都では人口が確実に増え始めていた。とくに移住者の増加が著しく、1810年の段階で8.25%であった外国人率が、1825年にはその倍になったという。うち圧倒的に多かったのが、ハンガリー、ポーランド、ボヘミア、モラヴィア等といった東方からの移住者だった。そのなかにはもちろん音楽家もいたのである。フランツ・シューベルト(1797-1828)は、まさにこうした時代のウィーンに生きた作曲家なのだ。

1827年ベートーヴェンの葬儀に参列したあと、この巨人に続けとばかりに、シューベルトの創作意欲は翌28年にかけて爆発的に高まった。連作歌曲集《冬の旅》、最後の3つのピアノ・ソナタ、等々。この過程で新たな楽曲形式に挑んでいるのも目を引く。これから聴く弦楽五重奏曲ハ長調もそうで、シューベルトは弦楽四重奏にヴィオラを1挺加える五重奏の「常識」に反し、ヴァイオリン2挺、ヴィオラ1挺、チェロ2挺という編成をとった。チェロを、ハーモニーの土台を支えるだけの役割から大きく解放したのだ。演奏に50分以上を要するこの大作が完成したのは1828年9月。そして作曲者は、同年11月に燃え尽きるようにして逝ったのだった。31歳だった。

第1楽章 ドミソの和音ですーっと始まるや、次の瞬間、ふと不協和にゆがみ(減七の和音)、また濁りのないハ長調の世界へ戻る。チェロが2挺で歌う副主題は、ガラリーと変わって変ホ長調。だが不安の影は、やはりシューベルトらしく「ふと」よぎる。

第2楽章 主題は第1ヴァイオリンが担っているように聴こえるが、これは「相の手」であって、担っているのは第2ヴァイオリン、ヴィオラ、第1チェロ。「時よ止まれ」と言わんばかりの遠大なホ長調の歌である。そこから突如、暗く激しいへ短調の中間部に突入。その後、ホ長調の部が戻るが、景色は一変している。

第3楽章 スケルツォ(ハ長調)ートリオ(変ニ長調!)ースケルツォ(ハ長調)の構成。舞曲系楽章のはずだが、トリオはオペラの独白のようにして始まる、嘆きもしくは祈りの音楽。

第4楽章 シンクペーションの波に乗った踊りの主題は、明らかにハンガリー風。これに始まり計3つの主題が織りなすロンド楽章。短調と長調のあいだを絶えず揺れ動く。

MODERN

沼野 雄司(音楽学) Yuji Numano

■コダーイ:ヴァイオリンとチェロのための二重奏曲 Op.7

2月26日(木)横浜みなとみらいホール 小ホール

ハンガリーに生まれたコダーイ・ゾルターン(1882-1967)は、ブダペストで学んだのち、1906年に盟友バルトークと共に民謡集を出版するなど、まずは音楽学者として頭角をあらわした。しかし第一次世界大戦が勃発してフィールドワークが難しくなると、彼は作曲に本腰を入れはじめる。

この《二重奏曲》は、1914年、彼の室内楽シリーズのさきがけとして書かれた作品である。**第1楽章**(アレグロ・セリオーソ)は、コダーイ独特の堅い響きが、ドラマティックな構成と結びついた例。作曲家自身の述べるところによれば、この楽章には作曲時に接していたアルプスの偉容と、戦争に対する悲痛な嘆きが反映されているという。**第2楽章**(アダージョ)は、チェロの伴奏にのって、ヴァイオリンの孤独なモノローグが続く神秘的な緩徐楽章。**第3楽章**は、即興的な序奏と戦闘的なプレストの2部分からなるが、とりわけ後半部ではバグパイプを模した響きがあらわれて、ハンガリー農民舞曲の世界をはっきりとうかがわせる。

■リゲティ:無伴奏ヴィオラ・ソナタ

2月25日(水)東海市芸術劇場

2月26日(木)横浜みなとみらいホール 小ホール

ジェルジ・リゲティ(1923-2006)はユダヤ系ハンガリー人の子としてルーマニアに生まれた。大戦中には、ユダヤ系であるがゆえにナチスの侵攻と共に生命の危機に瀕したものの、戦後、ブダペストで活動を再開。しかし共産主義化したハンガリーでは、言論や創作の自由が厳しく制限されており、結局、彼は1956年、ハンガリー動乱に乗じてウィーンへと亡命した。

西側でのデビュー当初は「トーン・クラスター」技法によって一躍名をはせたリゲティだが、晩年に近づくにつれ、その音楽は故郷である中欧の響きを色濃く湛えるようになった。微分音をふんだんに用いた《ヴィオラ・ソナタ》もそのひとつ。彼は「もしもヴィオラに、C線より5度低いF線があるとして、この弦の第5、第7、第11倍音という、平均律では“調子外れ”となる自然倍音を使用したらどうなるか」と想像したという。

曲は6つの楽章からなる。**第1楽章**「ホラ・ルンガ」は、ルーマニア民謡を模した旋律が、ゆったりと綴られる。**第2楽章**「ループ」は、スケルツォ的な作りの中で、澄んだ響きの重音が響く。**第3楽章**「ファチャール」は、一種の変奏曲。**第4楽章**「プレスティシモ・コン・ソルディーノ」は、無窮動な流れのなかから旋律断片が浮かびあがる。**第5楽章**「ラメント」は、バルカン地域の民俗音楽を模した、2度と7度の重音からなる楽曲。そして**第6楽章**「シャコンヌ・クロマチック」では、ジャズ的な要素が民俗音楽と接続されるなか、はるかにバッハの影を探して全曲を閉じる。

■スルンカ:アブリボワーズ・モア

2月26日(木)横浜みなとみらいホール 小ホール

ミロスラフ・スルンカ(1975-)は、チェコ出身の作曲家の中でも、もっとも華々しい活躍を遂げているひとり。プラハで作曲と音楽学を学び、さらにベルリン、パリでも研鑽を積んでユニヴァーサルな語法を身につけた彼は、近年はオペラの分野でも次々に話題作を発表。今やヨーロッパ音楽界の台風の眼となっている。彼の音楽を一言でいえば、繊細な微分音を駆使した脆くも色彩ゆたかな音の雲、というあたりになるだろうか。ポスト・リゲティの最右翼ともいえるが、その音色感覚はあまりにも独特で、他に比べる作曲家が思い当たらない。

《アブリボワーズ・モア》は「プラハの春音楽祭」のコンクールのための課題曲として2023年に書かれた作品。タイトルはサン＝テグジュペリの『星の王子さま』の中で、キツネが王子さまに「俺を飼いなしてくれ」と懇願する部分から採られている。つまりここでは演奏者がヴァイオリンという楽器をいかにして「飼いなす」かが問われているわけだ。

全体は6分ほどの短いものだが、無音の中から冒頭の下行音型があらわれ、ハーモニクス、グリッサンド、微分音、そしてこれらを組みあわせたさまざまな重音奏法が展開する。結果として現出するのはスルンカ独特の、ふわりと掴みどころのない音の雲。やがてこの音の亡霊は小さな振動を積みかさねながら、再び沈黙の中に沈んでゆく。

■マルティヌー:ピアノ五重奏曲第2番 H.298

2月25日(水)東海市芸術劇場

2月26日(木)横浜みなとみらいホール 小ホール

チェコに生まれたボフスラフ・マルティヌー(1890-1959)ほど、歴史に翻弄された作曲家もいないだろう。オーストリア帝国下のチェコに生まれ、第一次大戦後に祖国が独立を果たすと、パリに渡って新古典主義の洗礼を受けた。しかし第二次大戦が勃発すると1941年、アメリカに亡命。戦後は祖国への帰国を願うも、チェコは新しい冷戦体制の中で共産主義国家に生まれ変わってしまう。結局、彼は失意の元に、アメリカやヨーロッパを渡り歩きながら、400曲を超える膨大な作品を書き綴ってゆくことになったのだった。

この《ピアノ五重奏曲第2番》は、大戦中の1944年、ニューヨークで書かれた作品。故郷である中欧の響きと、アメリカのジャズ的な響きが一体化した、いわば彼の人生を象徴するような音楽である。

第1楽章(ポコ・アレグロ)は、幻想的な序奏を経てタンゴのような流麗なリズムにのった主題が展開する。架空の映画音楽のような鮮やかさ。**第2楽章**(アダージョ)は、密やかに紡がれる響きが色合いを変えてゆく過程。**第3楽章**(ポコ・アレグレット)は5つの楽器が機敏に動き回りながら、役割を交替してゆくスケルツォ。もっとも、トリオでは一転して抒情が支配する。**第4楽章**(ラルゴ・アレグロ)は、弦楽器による追悼の響きにはじまり、弾けるようなアレグロへ。しかし饒舌の最高潮で、再び悲しみが噴出する。



Akiko Suwanai

諏訪内 晶子 (国際音楽祭NIPPON 2026 芸術監督/ヴァイオリン)

1990年史上最年少でチャイコフスキー国際コンクール優勝。これまでに小澤征爾、マゼール、デュトワ、サヴァリッシュらの指揮で、ボストン響、フィラデルフィア管、パリ管、ベルリン・フィルなど国内外の主要オーケストラと共演。BBCプロムス、シュレスヴィヒ=ホルシュタイン、ルツェルンなどの国際音楽祭にも多数出演。2012年、2015年エリザベート王妃国際コンクールヴァイオリン部門及び2019年チャイコフスキー国際コンクール審査員。2012年より「国際音楽祭NIPPON」を企画制作し、同音楽祭の芸術監督を務めている。2024年6月に最新アルバム「ブラームス:ヴァイオリン・ソナタ集」をリリース。

桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコース修了。文化庁芸術家在外派遣研修生としてジュリアード音楽院本科及びコロンビア大学に学んだ後、同音楽院修士課程修了。国立ベルリン芸術大学でも学び、2021年学術博士課程修了、ドイツ国家演奏家資格取得。

使用楽器は、日本にルーツをもつ米国在住のDr.Ryuji Uenoより長期貸与された1732年製作のガールネリ・デル・ジェズ「チャールズ・リード」。

Akiko Suwanai (Violin / Artistic Director of International Music Festival NIPPON 2026)

Akiko Suwanai was the youngest ever winner of the International Tchaikovsky Competition in 1990. She has performed with the world's foremost orchestras, including the Boston Symphony, Philadelphia Orchestra, Orchestre de Paris, Berlin Philharmonic, and NHK Symphony Orchestra, under the batons of Ozawa, Maazel, Dutoit, and Sawallisch, just to name a few. She has appeared in numerous international music festivals including the BBC Proms, Schleswig-Holstein, Lucerne and others. Suwanai was a jury member of the violin divisions of the Queen Elisabeth International Music Competition of Belgium in 2012 and 2015, the Concours International Long-Thibaud-Crespin in 2018, and the International Tchaikovsky Competition in 2019. Since 2012, Akiko Suwanai has been Artistic Director of the International Music Festival NIPPON, which she plans and produces. She has released 15 CDs on the Decca label.

Akiko Suwanai studied at Toho Gakuen Music High School and completed the Soloists' Diploma Course of Toho Gakuen College of Music. After studying at the Juilliard School and Columbia University on the Artist Overseas Training program sponsored by the Agency for Cultural Affairs, she received a master's degree in Music from the Juilliard School. She also studied at the Universität der Künste Berlin, and in 2021 completed the doctor of arts program and received the Konzertexamen degree, Germany's qualification for outstanding musicians.

Akiko Suwanai performs on the "Charles Reade" Guarneri del Gesù violin c1732, on long-term loan from Dr. Ryuji Ueno, who has Japanese roots and lives in the United States.



Benjamin Schmid

ベンジャミン・シュミット (ヴァイオリン)

1992年カール・フレッシュ・コンクール優勝。小澤征爾指揮ウィーン・フィルをはじめ、ロンドン・フィル、サンクトペテルブルク・フィル、コンセルトヘボウ管など著名オーケストラと共演。60枚以上のCDをリリース、ドイツ・レコード賞ほか多数受賞。ジャズ即興でも高い評価を得ている。ザルツブルク・モーツァルテウム大学教授。ミュンヘン国際をはじめとする国際コンクールの審査員を務める。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団との『コルンゴルト:ヴァイオリン協奏曲』の録音は、ライブ録音ベスト10の一つに挙げられている。

Benjamin Schmid (Violin)

Winner of the Carl Flesch Competition in 1992. Benjamin Schmid has performed with renowned orchestras such as the Vienna Philharmonic Orchestra conducted by Seiji Ozawa, the London Philharmonic Orchestra, Saint Petersburg Philharmonic Orchestra, and Concertgebouw Orchestra. He has released over 60 CDs and received numerous awards including the German Record Critics' Award. He is also highly acclaimed for his jazz improvisations. Schmid is a professor at the Mozarteum University Salzburg. He has served as a jury member for international competitions including the ARD International Music Competition Munich. His recording of the Korngold Concerto with Vienna Philharmonic was listed as one of top ten best live recordings ever recorded.



Tomoko Akasaka

赤坂 智子 (ヴィオラ)

ジュネーヴ音楽院にて今井信子女史に師事の傍ら同校助教授を経た後、ライプツィヒ、デュッセルドルフ音楽大学にて後進の指導に当たり、現在ミュンスター音楽大学教授。スイス・ルツェルン、ヴェルビエ音楽祭、オーストリア・ザルツブルク音楽祭等に常時招かれ、コンサートではベルリン・フィルハーモニーホール、ウィーン・ムジークフェラインなどのホールにてリサイタルに出演。第53回ミュンヘン国際音楽コンクール第3位授賞。ペンデレトン財団よりミュージシャン・オブ・ザ・イヤー授賞。ジュネーヴ国際コンクールを始めとする国際コンクールの審査員を務める。

Tomoko Akasaka (Viola)

The 3rd prize at the 53th Munich International music competition. She entered the Diploma course of the Toho Conservatory which she completed. Tomoko Akasaka studied with Nobuko Imai at the The Genève Conservatory of Music, where she then worked alongside her professor as an assistant. After serving as a visiting professor at Robert Schumann University of Music and Leipzig University of Music, she is currently a professor at Münster University of Music.



*Yasuhiro
Suzuki*

鈴木 康浩 (ヴィオラ)

読売日本交響楽団ソロ・ヴィオラ奏者。第7回全日本学生音楽コンクール東京大会高校の部第1位ほか受賞多数。2001年よりカラヤン・アカデミーで研鑽を積み、ベルリン・フィルの契約団員となる。サイトウ・キネン・フェスティバル、宮崎国際音楽祭など多方面で活躍。

Yasuhiro Suzuki (Viola)

Yasuhiro Suzuki is a principal solo violist with the Yomiuri Nippon Symphony Orchestra. Suzuki has won many prizes, including 1st Prize in the high school division of the Tokyo round of the 47th Student Music Concours of Japan. Suzuki trained at the Karajan Academy in Germany starting in 2001, and became an associate member of the Berlin Philharmonic. His wide-ranging activities also include appearances at the Saito Kinen Festival and the Miyazaki International Music Festival.



*Rei
Tsujimoto*

辻本 玲 (チェロ)

東京藝術大学音楽学部器楽科を首席で卒業後シベリウス・アカデミー、ベルン芸術大学に留学。2009年ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール第3位入賞(日本人最高位)。2013年齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。2019年CD『オブリヴィオン』をリリース(「レコード芸術」誌特選盤)。NHK交響楽団首席チェロ奏者。使用楽器はNPO法人イエロー・エンジェルより1730年製作のアントニオ・ストラディヴァリウスを、弓は住野泰士コレクションよりTourteを、特別に貸与されている。

公式サイト <http://www.rei-tsujimoto.com>

Rei Tsujimoto (Cello)

Rei Tsujimoto, principal cellist of the NHK Symphony Orchestra, is a premier prix graduate of Tokyo University of the Arts. He continued his studies at the Sibelius Academy in Finland and Hochschule der Künste Bern in Switzerland. He was awarded second place as well as the Audience Award at the 72nd Music Competition of Japan. In 2007. In 2009, he was granted third place at The Gaspar Cassado International Violoncello Competition.



*Jens-Peter
Maintz*

イエンス=ペーター・マインツ (チェロ)

1994年ミュンヘン国際音楽コンクールにおいてチェロ部門17年ぶりの優勝者となる。2006年よりクラウディオ・アバドの招聘をきっかけにルツェルン祝祭管弦楽団ソロ・チェリストを務めている。これまでにアシュケナージ、ブロムシュテットらと共演。2004年よりベルリン芸術大学教授。使用楽器は、デヴィッド・テクラー[David Tecchler](1741年)製《エクス=フォイアマン》。

Jens-Peter Maintz (Cello)

Jens-Peter Maintz enjoys an international reputation as a soloist, chamber musician, and teacher. He studied with David Geringas and won First Prize at the 1994 ARD International Music Competition. He has appeared with orchestras including the Berlin Radio Symphony, Stuttgart Radio Symphony, Den Haag Residentie Orkest, and Tokyo Symphony Orchestra, collaborating with conductors such as Ashkenazy, Blomstedt, Janowski, and Welser-Möst. Since 2006, he has been principal cello of the Lucerne Festival Orchestra. He is Professor in Berlin (UdK) and Madrid (Reina Sofia) and plays the “Ex-Feuermann” cello by David Tecchler (1741).



*Minsoo
Sohn*

ソン・ミンソ (ピアノ)

音楽的知性と鮮やかな技巧で知られる韓国系アメリカ人ピアニストであり、その才能は米国、カナダ、韓国で絶賛されている。特にバッハとベートーヴェン作品の解釈によって、このレパートリーにおける第一人者とされており、多数の賞を受賞している。2020年秋、ソニークラシカルより9枚組の『ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ全曲』をリリース。2023年秋、ニューイングランド音楽院ピアノ教授陣に加わった。

Minsoo Sohn (Piano)

Sohn is a Korean-American pianist known for his musical intelligence and masterful virtuosity — qualities that have earned him acclaim throughout the United States, Canada and Korea. His readings of the works of Bach and Beethoven in particular have placed him among the elect in this repertoire, and the inspired ingenuity of his performances of orchestral repertoire have earned him many accolades. The Sony Classical released the highly anticipated nine-album set of “Complete Beethoven Piano Sonatas” in the Fall of 2020. In fall 2023, Sohn joined the piano faculty at New England Conservatory.



国際音楽祭 NIPPON 2026 芸術監督: 諏訪内晶子

【横浜開催】Yokohama

サッシャ・ゲッツェル指揮 国際音楽祭NIPPONフェスティバル・オーケストラ 諏訪内晶子(ヴァイオリン)

International Music Festival NIPPON Festival Orchestra

2月11日(水・祝) 17:00 横浜みなとみらいホール 大ホール

February 11 Wed. 17:00 Yokohama Minato Mirai Hall, Main Hall

室内楽プロジェクト Akiko Plays MODERN with Friends ~中欧の旅

Chamber Music Project: Akiko Plays MODERN with Friends

2月26日(木) 19:00 横浜みなとみらいホール 小ホール

February 26 Thu. 19:00 Yokohama Minato Mirai Hall, Small Hall

室内楽プロジェクト Akiko Plays CLASSIC with Friends ~中欧の旅

Chamber Music Project: Akiko Plays CLASSIC with Friends

2月28日(土) 14:00 横浜みなとみらいホール 大ホール

February 28 Sat. 14:00 Yokohama Minato Mirai Hall, Main Hall

フォーレ室内楽全曲マラソンコンサート

Fauré Complete Chamber Music Marathon Concert

3月1日(日) 横浜みなとみらいホール 大ホール

【第1部】11:00開演 【第2部】14:00開演 【第3部】16:00開演 【第4部】19:00開演

March 1 Sun. Yokohama Minato Mirai Hall, Main Hall

[Part 1] 11:00 [Part 2] 14:00 [Part 3] 16:00 [Part 4] 19:00

公開マスタークラス(ヴァイオリン部門)〈チェロ部門〉

Public Master Class (Violin/Cello)

3月2日(月) 横浜みなとみらいホール

March 2 Mon. Yokohama Minato Mirai Hall

3月3日(火) 横浜みなとみらいホール

March 3 Tue. Yokohama Minato Mirai Hall

【愛知開催】Aichi

サッシャ・ゲッツェル指揮 国際音楽祭NIPPONフェスティバル・オーケストラ 諏訪内晶子(ヴァイオリン)

International Music Festival NIPPON Festival Orchestra

2月10日(火) 19:00 東海市芸術劇場 大ホール

February 10 Tue. 19:00 Tokai City Arts Theatre, Main Hall

室内楽プロジェクト Akiko Plays CLASSIC & MODERN with Friends ~中欧の旅

Chamber Music Project: Akiko Plays CLASSIC & MODERN with Friends

2月25日(水) 19:00 東海市芸術劇場 大ホール

February 25 Wed. 19:00 Tokai City Arts Theatre, Main Hall

ミュージアム・コンサート

Museum Concert

2月23日(月・祝) 19:00 トヨタ産業技術記念館 エントランス・ロビー

February 23 Mon. 19:00 Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology, Entrance Lobby

【岩手開催】Iwate

諏訪内晶子 & フレンズ in 久慈

Akiko Suwanai & Friends in Kuji

2月21日(土) 14:00 久慈市文化会館(アンバーホール) 大ホール

February 21 Sat. 14:00 Kuji City Cultural Center "Amber Hall", Main Hall

【宮城開催】Miyagi

諏訪内晶子 & フレンズ in 石巻

Akiko Suwanai & Friends in Ishinomaki

2月22日(日) 14:00 マルホンまきあーとテラス(石巻市複合文化施設) 大ホール

February 22 Sun. 14:00 Maruhon Makiart Terrace (Ishinomaki City Cultural Complex), Main Hall



INTERNATIONAL
MUSIC FESTIVAL
NIPPON



主催: ジャパン・アーツ/日本経済新聞社/東海市・東海市教育委員会(東海市公演)/久慈市教育委員会(久慈公演)/

石巻市/石巻市教育委員会/いしのまき・みらいクリエイション(石巻公演)

共催: [横浜] 横浜みなとみらいホール(公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団) [愛知] 中日新聞社/CBCテレビ

[岩手] 岩手日報社/岩手朝日テレビ [宮城] 河北新報社/tbc東北放送

後援: ドイツ連邦共和国大使館/オーストリア大使館 オーストリア文化フォーラム東京/駐日韓国大使館 韓国文化院

特別協賛: 豊田自動織機 TOYOTA 豊田通商 AISIN

協力: トヨタ産業技術記念館(名古屋公演)/神奈川芸術協会(横浜公演)/ユニバーサル ミュージック

企画制作: ジャパン・アーツ

プログラム監修: 沼野雄司 船木篤也

マネジメント: ジャパン・アーツ/クラシック名古屋(名古屋公演)



22世紀を

移動の真ん中に

AISIN

動かそう

www.aisin.com/jp 株式会社 アイシン

トヨタ自動車株式会社



モビリティを通じて、もっと住みやすい社会に。

全ての人が、楽しく自由に移動できる世界を、想像してみませんか。

もうすぐそこに、そんな社会が近づいて来ています。

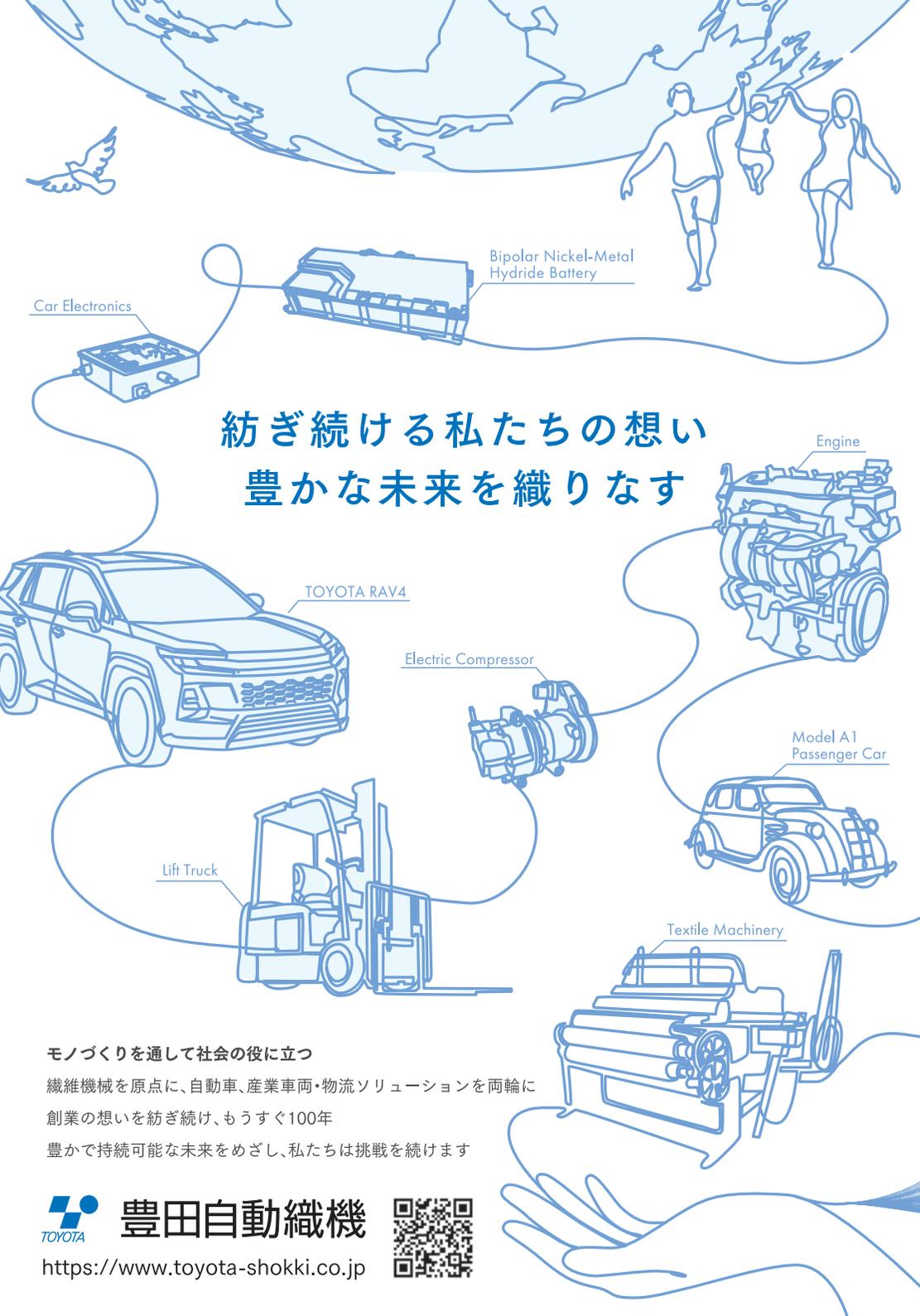
私たちは、誰もがそれぞれの可能性にチャレンジできる社会づくりを目指しています。

TOYOTA



心をひろく。
未来をえがく。

未来の子供たちにより良い地球を届ける



紡ぎ続ける私たちの想い
豊かな未来を織りなす

モノづくりを通して社会の役に立つ

繊維機械を原点に、自動車、産業車両・物流ソリューションを両輪に
創業の想いを紡ぎ続け、もうすぐ100年

豊かで持続可能な未来をめざし、私たちは挑戦を続けます



豊田自動織機

<https://www.toyota-shokki.co.jp>

